

#### 4-10 伊豆半島における地磁気・地電流観測（4）

#### Observations of the Electric and Magnetic Fields in the Izu Peninsula (4)

東京工業大学理学部

京都大学防災研究所

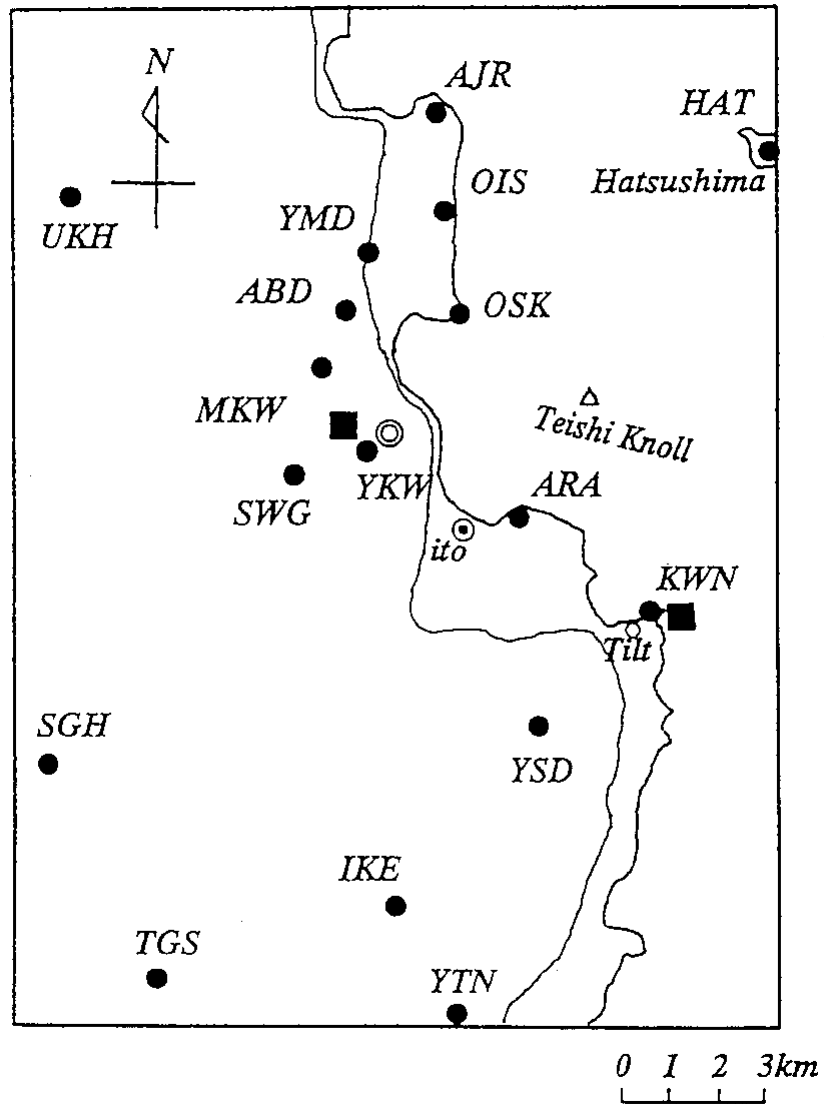
Faculty of Science, Tokyo Institute of Technology

Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

第1図に観測点の分布を示す。丸印は全磁力観測点を表す。このうち、東工大理と防災研が担当している観測点は、OIS, YMD, ABD, MKY, YKW, KWNの6点で、他は地震研の観測点である。四角印は地電位観測点（KWN, YKW）、二重丸印（YKW）は地磁気・地電流変化観測点を表す。この他に、伊豆半島北西部の戸田（HED）にも全磁力観測点があり、ここでの全磁力データを参照データとして使っている。

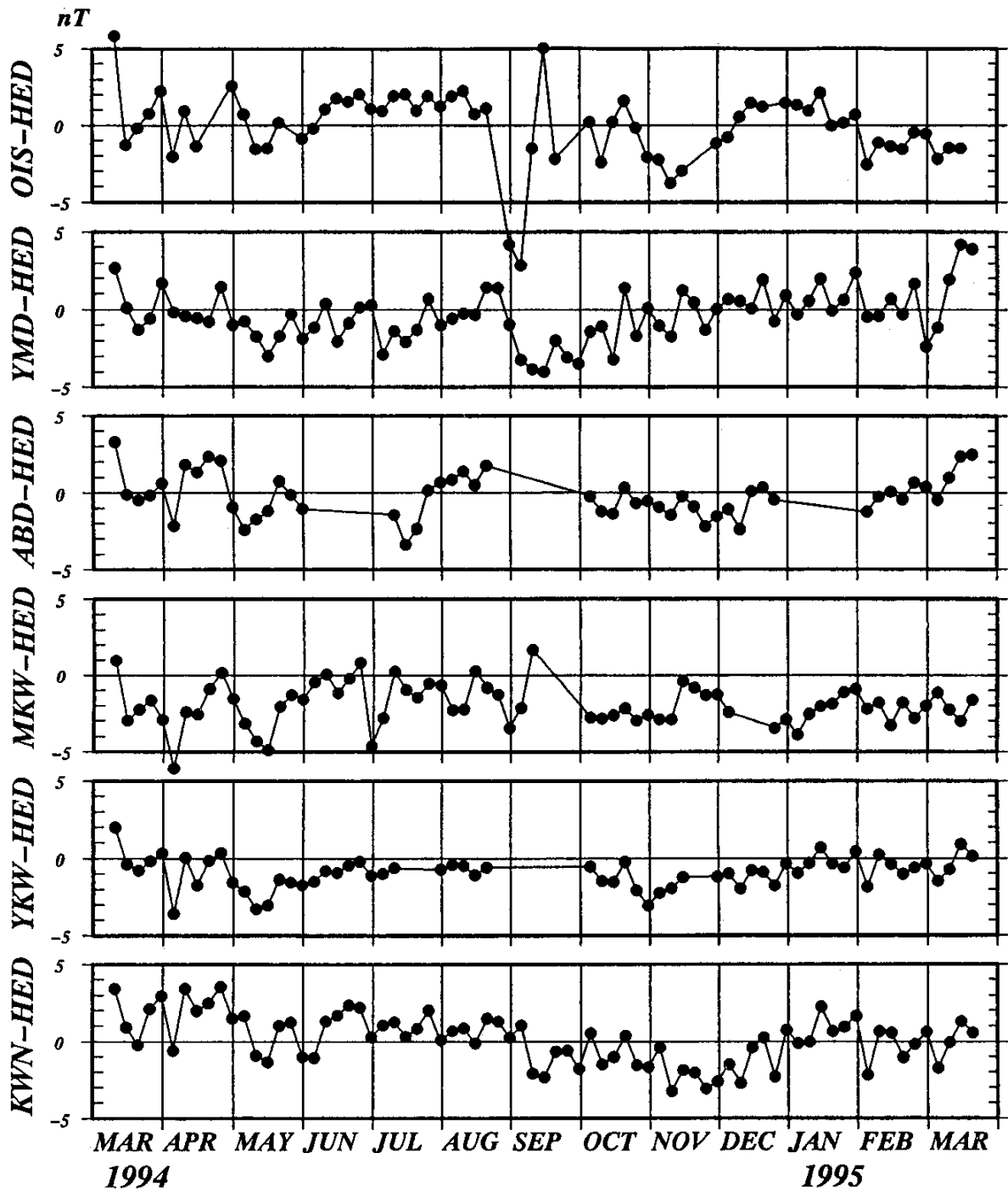
第2図は、HEDを基準とした場合の各観測点における最近の全磁力変化である。最近の注目すべき変化は、YMDとABDの3月上旬からみられる増加傾向である。3月下旬から5月にかけてHEDが欠測であったため、この図ではその後の経緯はわからない。そこで、第3図にOISを基準とした場合の全磁力変化をしめす。この図において、YMDの全磁力増加は4月にはもとに戻ったものの、ABD, MKW, YKWがいずれも増加の傾向を示していることがわかる。このような変化の原因については現在のところ不明である。今後の様子を見守りたい。

第4図はKWN観測点における4月下旬までの地電位のデータである。NSの電極スパンは30m, EWは50mで、それぞれ同一2チャンネルとってある。この図に示してある降水量データ（ただし1月上旬まで）と比較すると、見掛け上の変化はほとんどすべて降雨によるものであることがわかる。また、ここでは海岸に近いこともあって、海洋潮汐による電位変化も顕著に観測されている。これらを考慮すると、とくに異常と思える変化は認められない。



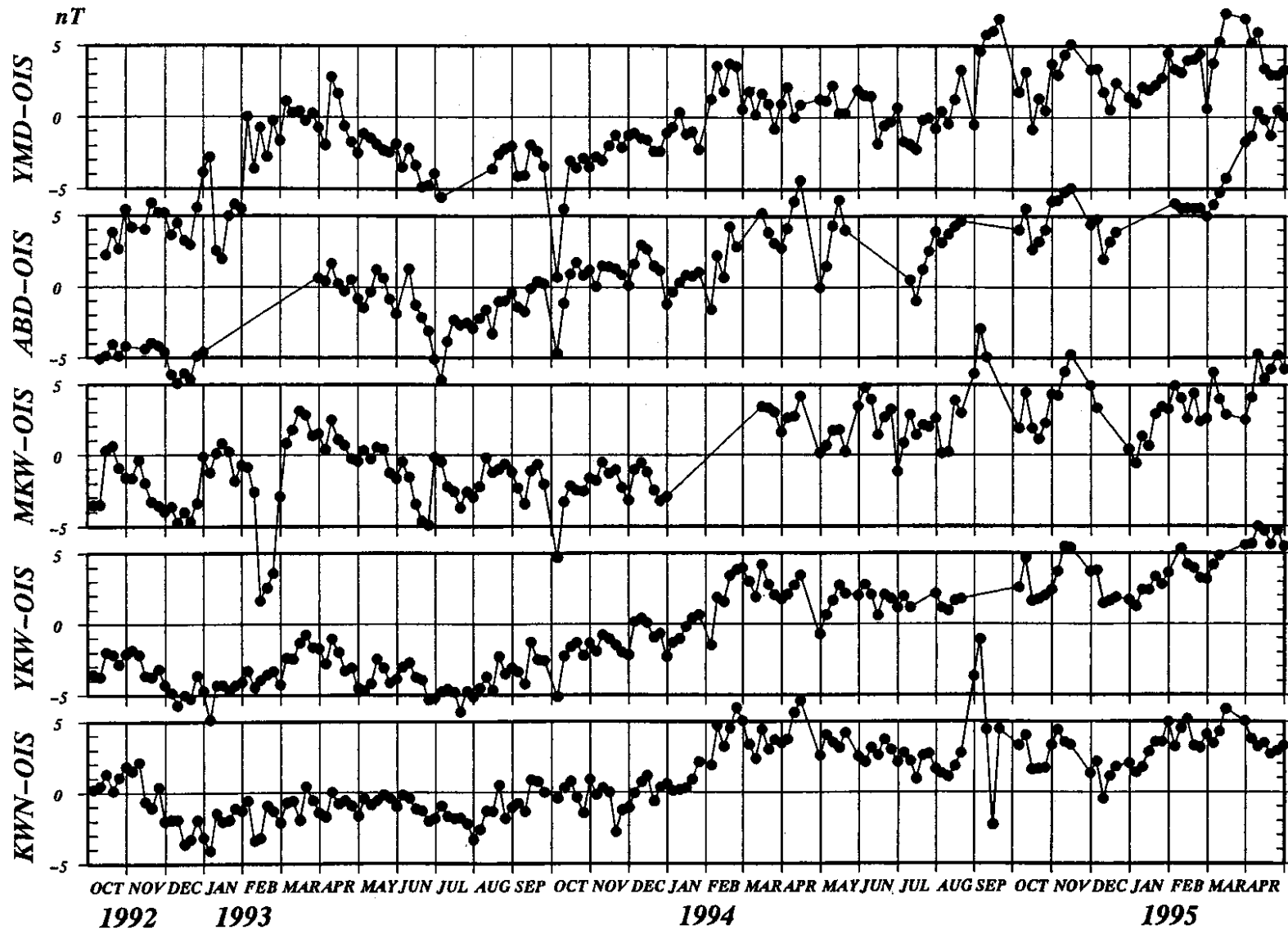
第1図 伊豆半島東部における地磁気・地電流観測点。●全磁力観測点 (OIS, YMD, ABD, MKW, YKW, KWN ; 他は地震研の観測点) : ■地電位観測点 : ◎地磁気・地電流変化観測点。

Fig. 1 Locations of electric and magnetic observation points in the eastern part of the Izu Peninsula.  
 ● Total intensity observation points: ■ electric potential observation points: ◎ geomagnetic and geoelectric variation observation point.



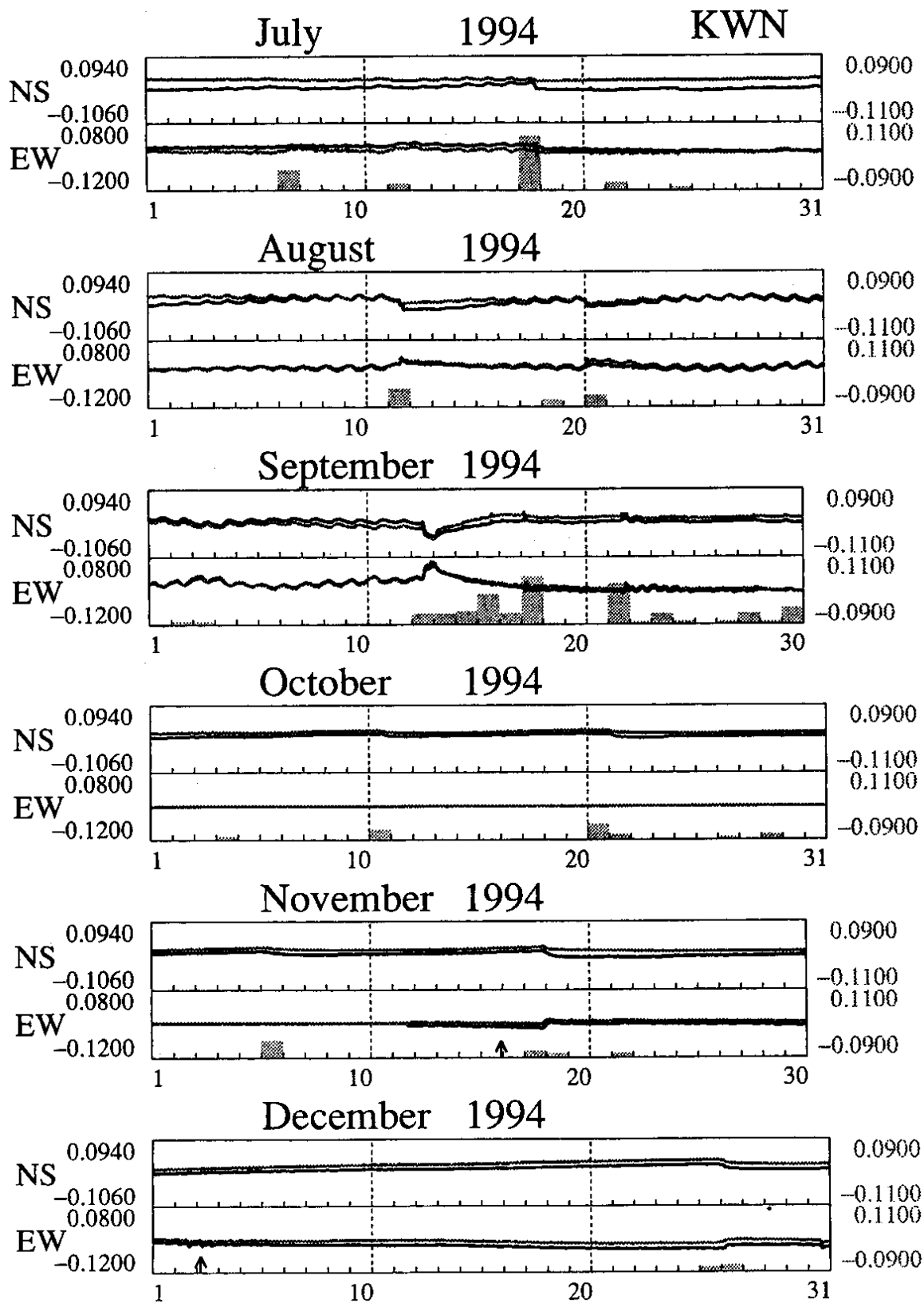
第2図 HED 観測点を基準とした場合の最近の全磁力変化

Fig.2 Changes in the total intensity relative to HED.



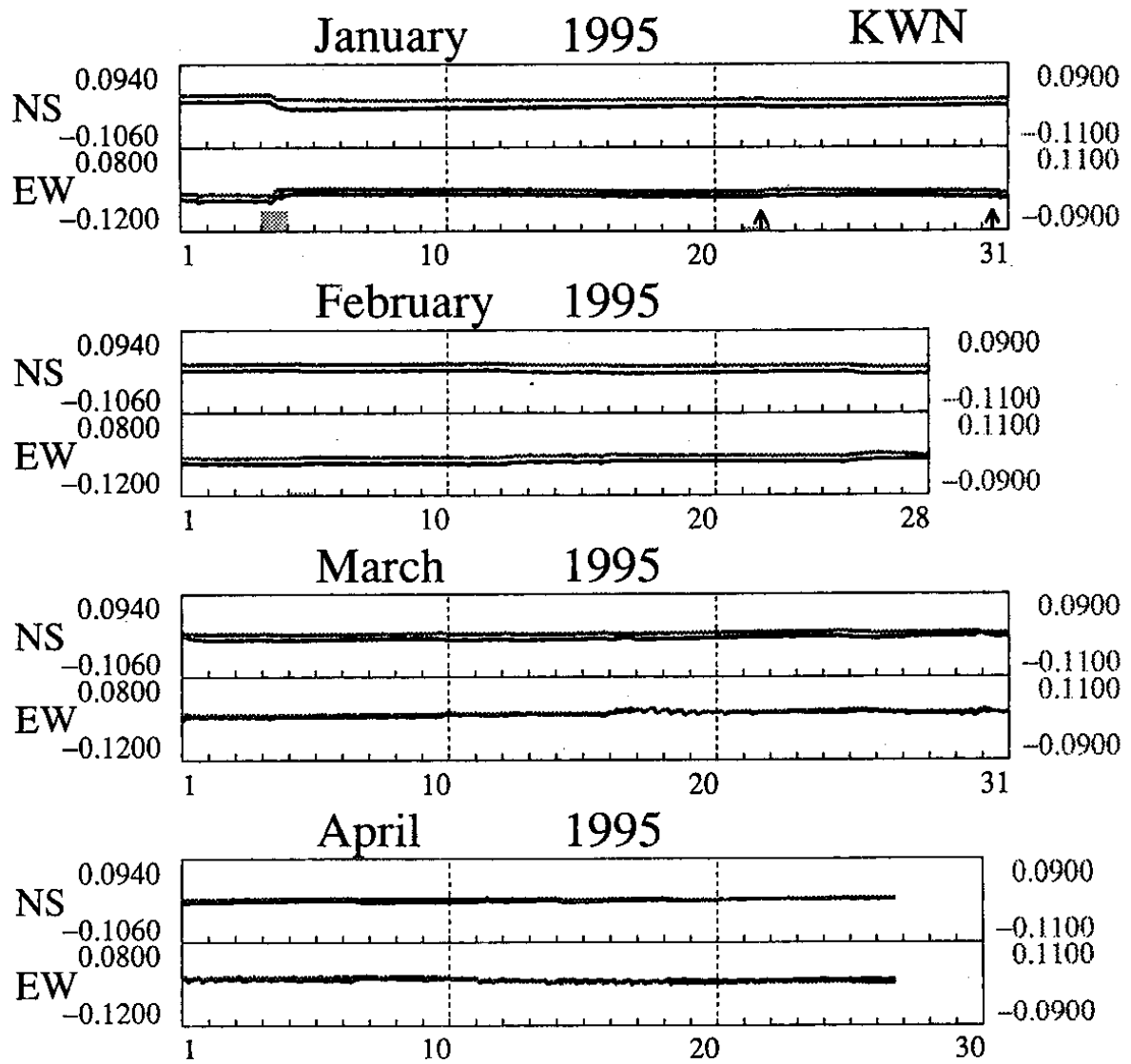
第3図 OIS観測点を基準とした場合の最近の全磁力変化

Fig.3 Changes in the total intensity relative to OIS.



第4図 KWN 観測点における地電位データ。縦軸の単位は volt。NS, EW それぞれ同一の2チャンネル記録をとっている (ただし、電極ペアは異なる)。1月上旬までの降水量データ (網代測候所) も示してある。

Fig. 4 Electric potential data at KWN in units of volt. Identical two channel data (except for electrode pairs) are shown for NS and EW components. The rainfall data until early January at the Ajiro station are also shown.



第4図 つづき  
Fig.4 (Continued)